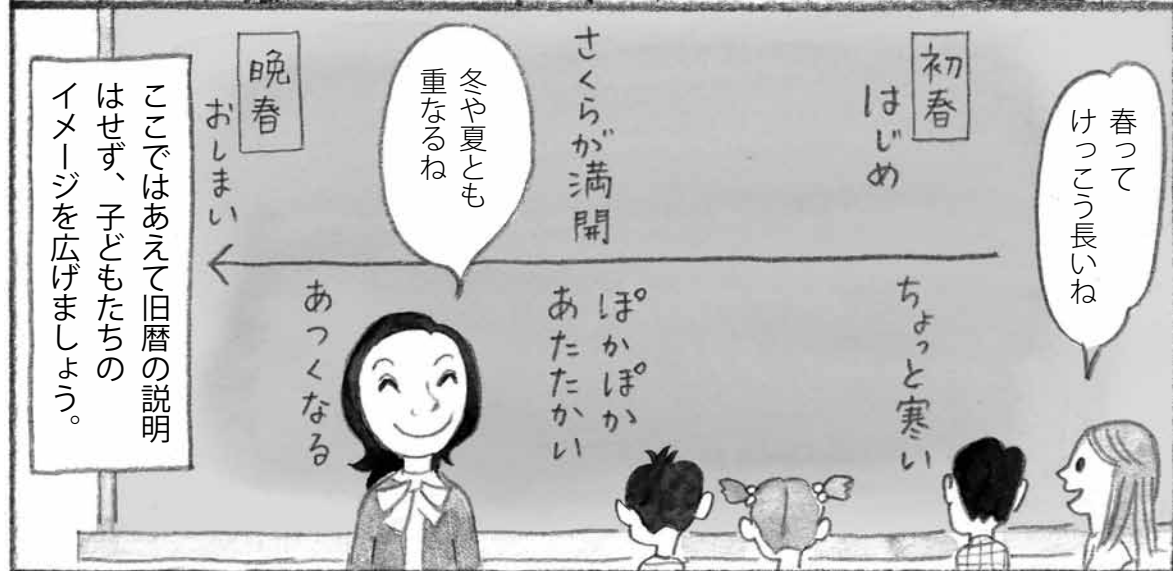


作・画/吉永直子



「春の海  
終日のたり  
のたりかな  
与謝蕪村」

「貼る」というのは簡単な  
ことですが、実は自分で解釈して  
人に説明しなければなりません。

海って暑いときに  
入るから晩春!

うーん……

早春?

終日って書いてある  
から寒いときじゃ  
なくて三月  
より後かな

また、集めるだけでなく、  
分類することによっても  
新しい発見が生まれます。

「君がため  
春の野に出でて  
若菜つむ  
わが衣手に  
雪は降りつつ  
光孝天皇」

「雪は降りつつ」だから  
まだ寒い時期だと思う

「若菜つむ」って  
書いてある」

「ひさかたの  
光のどけき  
春の日に  
しづ心なく  
花の散るらむ  
紀友則」

「花」って  
桜のことかな

百人一首のかるたに  
桜の散る絵が  
描いてあったから  
四月だと  
思います

「ひさかたの  
光のどけき  
春の日に  
しづ心なく  
花の散るらむ  
紀友則」

「花の色は  
うつりにけりないたづらに  
わが身世にふる  
ながめせしまに  
小野小町

もろともにあはれと思へ山桜  
花よりほかに知る人もなし  
前大僧正行尊

ひさかたの 光のどけき 春の日に  
しづ心なく 花の散るらむ  
紀友則

桜が満開の頃って、  
逆にさみしい歌が  
多いんだね

子どもたちは  
感覚的に鑑賞する  
ことができるんですね

ええ。小学校の  
古典では季語や文法  
などにとらわれず  
子どもたちの感覚を  
養っていききたい  
ものです

つづく

そして、探してきた  
春の短歌や俳句を  
短冊に書いて  
発表します。

発表する人は  
時期を予想して  
短冊を黒板に貼り  
どうしてそう  
思ったのか  
説明してね

見ている人は  
貼る場所を  
予想しよう

「桜が満開」  
三月  
四月  
「晩春」  
「早春」  
「寒い」  
「一月」

「君がため  
春の野に出でて  
若菜つむ  
わが衣手に  
雪は降りつつ  
光孝天皇」

「雪は降りつつ」だから  
まだ寒い時期だと思う

「若菜つむ」って  
書いてある」

「ひさかたの  
光のどけき  
春の日に  
しづ心なく  
花の散るらむ  
紀友則」

「花」って  
桜のことかな

百人一首のかるたに  
桜の散る絵が  
描いてあったから  
四月だと  
思います

「ひさかたの  
光のどけき  
春の日に  
しづ心なく  
花の散るらむ  
紀友則」

「花の色は  
うつりにけりないたづらに  
わが身世にふる  
ながめせしまに  
小野小町

もろともにあはれと思へ山桜  
花よりほかに知る人もなし  
前大僧正行尊

ひさかたの 光のどけき 春の日に  
しづ心なく 花の散るらむ  
紀友則